

なまの神はくきんむら

中村俊定文庫

文庫 18

1016

65

70

75

80

綾太理大人著

後篇端書妙

洛陽書林

叢桂堂梓

かたがわり序

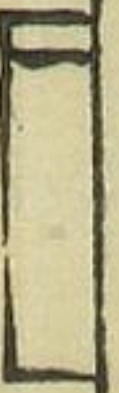


モリタケノアヤタリウシ  
る多字能綾足大人。こゝ以後位む執るゐに



猿行志すまのひいぞ。ささくはたのちどあめさく。そ  
ほさく乃書ども海も仰りぬひ。うらちみみのも  
ようち日さひみまびとこのむ人乃年スガに友の程れ  
秘もころあろよあ人あ人バ。そらかぞふありよよみな  
し。又天中サマのあそひのあそひ人さ入序サマとふさの終

のあるひもあつう。そよまのしよまのむじやも入るよ。たの  
 ぼうもいせいのらんよ。むじやも古昔フルコロトの海シメよもらか  
 まのむじやもなる。むじやもむじやも。こりくやむじや  
 めどむじやも。むじやもむじやも。むじやもむじやも。むじやも  
 ゆじやも。おとに物大人のむじやも。むじやもむじやも。むじやも  
 なる。ハヤもむじやも。むじやもむじやも。むじやもむじやも。むじやも  
 のむじやもがむじやも。むじやもむじやも。むじやもむじやも。むじやも



あん書カキよあはれ。むじやもむじやも。むじやもむじやも。むじやもむじやも。  
 ゆじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。  
 これもむじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。  
 のむじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。  
 物。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。  
 しやむじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。  
 よ。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。むじやも。

に於てもづらんこと所なりと。そのことより我  
はいづく書よきとらんかといふ

歌乃高田及系夜波美

好篇婦書凡俗

目録

君よきとる句	ノ三	祖父よきとる句	ノ五
祖母よきとる句	ノ六	父よきとる句	ノ六
母よきとる句	ノ七	舅よきとる句	ノ八
姑よきとる句	ノ九	叔父よきとる句	ノ十

兄よなる詞

十ウ

伯母よなる詞

十ウ

婿よなる詞

十ウ

兄嫁よなる詞

十ウ

弟へりる詞

十ウ

妹くりる詞

十ウ

甥よる詞

十ウ

子よる詞

十ウ

孫よる詞

十ウ

我妹よる詞

十ウ

子りつまよる詞

十ウ

友ともよる詞

十ウ

月次よる詞

十ウ

あそびがらよる詞

十ウ

天

物と流るる詞

三十ウ

坊つるあそびの詞

三十ウ

悼乃詞

三十ウ

仏よなる詞

四十ウ

神よなる詞

四十ウ

家よる旅立を送る詞。或はもうそののち  
詞。又道中をいづりよまむべき詞のたぐひと。  
け集ふり〜ぬるハ。須受義孝といふ  
母子れ申ふ。おほくもるこをどりのを

出—ぬきばらばらそふゆづりたるあり  
ける

海篇端書凡俗

君よなまら何

○清お乃死さうりるるにウタケ果紀 ウタケあまのやま  
めさるるまきバあうぞ。清キほふらひ清キ新たむひ  
るるにあう入なる

○坊シ、ヒトと死清おらうくシ、ヒト完人日本紀とあされく。  
勇ナヘヒトクナ清ナヘヒトクナはうせ「清ナヘヒトクナ一ナヘヒトクナ」延喜式とをるさせてそれを

考きせくめん。万葉 食 ころ間よ 万葉 夕風吹くころ

く。食物も 清原も 死して 安かきと ぬれ

ば。むらぶ人とも ちがれりとも。とみよ 奇あを

物ほせあるよ

○ 初冠 ウヒカウフリ 伊勢物語 元服ナリ 志まお 清 祿子のたまふよめされ

られバまうぞ。かこけきとど ホギ 万葉 恐レアレドモナリ 加ろ前 ホギ ウタ

なほ

○ 清嫡女の君 ムカメ 日本紀 嫁君ナリ いせ終めに。なほほきとち

○ 舌船 万葉 一 船 古事記 と川原柳乃枝とけり。是

よはひくくもくもるとさく 日本紀

○ 清世継の君うあまきさせたまふよ。ほぎとあつうあま

つろく。清産屋 ウツヤ 古事記 にあまあつる

○ 傷乃殿あま。人くも 神幸殿がしらす射る

とさあけるを。騎射ふん 結ぶ ハセ なく 万葉 並ニテ其時 トイフホトノ多ナリ

かぶりのぬのまじり。ぢよよめとせむせよ  
アムレバ。

○<sup>カリ</sup>踏まゆらふらむにぬのいさう痛ニテ甚  
シキ也ナリ 浮む

風も吹くれバ廿チ 日本紀 幸八得物ノ  
もあつらふ

間廿ハダ 川カハカリ 乃あつらふ日本紀  
唯雁ノ也ナリ

て五葉集  
餅食サマナリ 足探ナリ せむらふアサリ のらふアサリ 浮むが

ことバ葉笠にやうしゆのくぬのかくれより

「<sup>五葉</sup>ぬきせ」故老ルトヨリ 浮むにぬくれバそれせぬ

あき。なるたぐひどももいほたむひやぐく

かいらせのふに。清持乃奇あをむされて。ゆめく

はふまふきと御あるに

○<sup>サレガウ</sup>散猿 葉ナリ ものせをくえらせゆめ。清のまよ

さむらひらるに。海の木五葉 トフバトイフト云初 舞はるの

あまらる中にマコト 実乃をいさうありおしかど。後よ



清オホヒ藤オホヒなど立タテさサらラとトぐグ死シさサらラゆユもモあアらラびビ。さサらラにニ波ハ津ツのノ木キ乃ノうウ人ニよヨめメりリかカらラけケきキいイとトあアらラれレババあアれレぐグさサあアらラとトみミよヨあアめメとト作サるルにニ

祖父よまらる祖

○祖オチ父チのノ命メ 古事記 命ハイマノ 八十ヤソありアリ九クつツふフ地チをヲ

まマぐグ。さサらラびビのノまマらラハハ「ひヒまマあアらラねネひヒ」 日本紀 寧マカヒ たタ

まマらラねネどドもモこコらラハハ「ひヒまマあアらラねネひヒ」 日本紀 寧マカヒ たタ

なナのノふフさサまマのノどド 万葉 コレモイサマシキ くれクれレババよヨみミてテなナらラ

○祖オチ父チのノ命メとト別ワ業ギ ナリトコロ 日本紀 にニまマらラるルまマあアらラせセてテ。

時トキのノあアらラ乃ノ花ハらラとト植ウこコめメてテ。なナのノくクさサあアらラせセるルにニ

祖母よまらる祖

○祖オバ母バのノ命メ乃ノにニ「たタいイたタのノみミ」 万葉 老ノ美ナリ てテおオもモしシんン

がガ。あアらラハハ有アるルのノ陽ヒよヨ祖オバ母バかカ自ジ 日本紀 カ自ハ戸知ニテ

其家ヲシルト云

羨ナリ依テアカ  
ムル祠トス

なごはのむらさむむじのいさふ。いふ

楊乃岐と云るヲルハ塔ノ咲タマコトニひどあめれるどきこえ

あつゝとるこそく

○祖母の大刀自母ナトヲ刀自トイフヨリ是ハ祖母ナレハ大ノ祠ヲモテイヘリ後系ふよき

おもひつた。大系の春日乃流律よホキコトぬき幣ナリ

なまんとくく信流ふよ。はらあつゝとく

父よなまの祠

○祖父の命ミコトひきくいさう死せらるゝぬらぐ。まきあり

こところハテ思ぬらよホキコトそれがホキコト流るゆと死の林よ

ゆたぐまけらた。人々ナリ新よみまぬまふよはききて。

あつれもあみまきなりける古事記

○祖父のみことミサカリ日本紀に植流ひつる後め。今

いとほいほそりそあつが。あゆもはらでホキコト花後

られバ。氏のはのえぬどあひひくホキコト流るゆと流る

によめる

○ 父乃命よ流杖ニツエもあつとそく

○ 父のみことよ記さむとあつひけるよ。さつよ「あら

あがひく」伊勢初巻よめる

○ 神父のこそせよハからねき隠居別業あり

そよあむとありにさめあつてあつよめる

母よなむと祀

○ 神母の力自西の必乃事大和抄浩巡り西国順礼之とんとそ

跡をむらう物流ふに五葉あつひ五葉 跡思ニテあつと

せき

○ 母の刀自空の紙乃おまみよあつとたあつに

かき古事記 伴ナフナリ 別帯ト云祀あつとられば。いさくち

あつとらむとあつとらむとあつとらむとあつとらむとあつとらむと

あつとらむとあつとらむとあつとらむとあつとらむとあつとらむと

乃いほり神ありてけりなれば。そのまゝそのおと  
さる。此方自乃おぼろしくおくりもせは終り神  
が<sup>万葉</sup>いそあはるせくよめる

○冬れもめ母のそとに「綿衣」<sup>ワタギヌ</sup> 万葉 今ノ綿衣ナリ  
<sup>万葉ニキヌワタトヨメルヲ</sup>  
トリナシ  
タリ ぬくまのつとてく

皇方よなる句

○神皇のそ乃かとなり。「おんはるあり」<sup>伊勢物語</sup> 来て

のあつこのせう一はもた。さうのちあつてあつたり  
しむご。あつてはくしあみしとらのせう一はあつに  
あつたり

○皇乃そ乃の家よ「倭鞆」<sup>ヒツククラ</sup> 延喜式 かにり 持テアリナリ  
テアノ及タ

たまふ神。日ほこのちあつた。今ハゆづる。とあつえ  
終る。おろそびよとてくよめる

始よなる句

<sup>伊勢物語</sup>

○我姑の力自ハ毒ツク妻ハ夫婦タカヒニ云に於られたるのそ。

ひらりつましくと日本紀連くニテタエザル心ノ詞仍テ物オモフ詞ニモナルあがりおしひ

もど。やをうくかりのそ。あゆツタサヤ二緒万葉家内ニ

家之造リコメテ住ム故よ遠りかへ。庭るとどうくくく

おねむらうらうらるをせまあへせらるに。いとせも

しらく新よみくたむらひるればあそくをさる

○姑のど心老女ハラバ天雲カフコの糸とるこさるん万葉ノ仮名ナリ

よくあそよあよ。新ニヒクハ葉ハ蘭メユの祈よみく  
あてあつる

叔父よまらる詞

○我ヲナ叔父ヲナのあそ日本紀吾兄アツクのそ伊勢物語庭イハナのそ庭好ナリ

終ひく。よくきをともあてくをへかりらるき

葉ハ死ると花ハこみつ。秋アキとなれば人つとをせ

くうイハナけあそふに伊勢物語あがりかたむらひらひく

その日乃「マラウトガ子宿客実」上客ヲイフ実ハによみそくなる

○とらのおおりの病々書後べき「フミヨム新宅之

と遠り後ひるに「カラガタ」方の雲をりそくしん人

てあわそくカハヘテハほへて

えよなる廻

○新いりせの命「日本紀」君よりカワモリ縁たあがりけるに。

そのほきそひそそくあがりまうけあまる弛走ナリ

あがりそりそくあまる

○新せうと伊勢物語のみことあまより漢獵し七地後あ

とそくウケヒロの行古事記よよ去乃所死エナリ

テナカ長海左二カテたあがりるに「日本紀」カ

とそく

伯母よなる廻

○新伯母乃刀自コバやじごころ後名伏魔よめまねく

まろぐる退出ナリと死。抱ナリさるは日本紀多ナリるうべけりなど。あが

ちく方ナリたむひナリらば。りやまのえなるとく

○伯母の君伊勢の中なるうかうが万葉氏族たりと人

まろぐるあゆ。かろりなるとくよめる

婿よなるとく

○新いらねの刀自日本紀人のあよびうらね嫁人ナリ

ありたまあゆ。かきとくよめる

○いらねの刀自ありあむひむらう麻の袴袴きぎぬ

万葉ヌノカタキヌトアリに和名鉈の志め乃衣とくなまらりなれ

び。ややひとく

兄嫁よなるとく

○あのみれ君ニヨノ及ノ也らコハチおあコハチくあまあをばて。

ハナカメ花瓶古今集に兄嫁ヲツメテ云橋コハチあゆなどあゆスミシエとあめそ。

の粉浜乃規万葉とくあゆとあゆとあゆとくか母

て前あのみたなの人バ。兄の君乃のみりよふものにて。

是ハ兄嫁ヘ  
言ふがきよあつけてなる  
謹ナリ

○あの先乃カ自よ切らうは物作の母子を借し

あつまるをく。伊君の事の家よ切をひは心をな

ぞんくあめる  
落クボノ君ハ賢女ナリ  
ナゾヘハクラヘルナリ

弟へのりあ宛

○おとうと入中つうひゆのまぶのほりぞよ。何のあ

かいつけくはうりール

○おとうとが様はまふ神。おとばるもれあそ。あ

まぬこころをよのくゆたうよくまよ  
此詞カ兼ノ  
ハシキナリ

など。ゆのえよんごころ

姉へのりあ宛

○おとのととあが人の家よまあよ初と。嫁入  
守り

ハ赤子  
古事記  
赤子賢女  
がらよなうみさほハ田をが



日本紀  
烈女ナリ

奇

とかり人など。いさあしくはるそひと死乃

○いりうとがかりとく都のりてて金コガチあましく袴ヒキ袴

たる。金粉ノ袴カ、ミカケ甚和名鉞上和名鉞紅ベニ粉和名鉞白ハクニ粉和名鉞

途ト云トアリ白キ物ト云ハ雅語ナリユスミ儀和名鉞黒クロ齒和名鉞の具ソナヘ具道唐カラ櫛シ匣シヤ

和名鉞漆匣ル嚴器ナルライフトアリナドゆらるとしてよめる

○いかりとが人よつぎそまニをトホ死シ入ハるルりリ

けらがいとくらあやあぬのモあナねナねナ

なうり月のあつたね。こころにゆららおんねバ

あめる

甥ムコよりうね

○所智チあうけらが西のゆよオ生ナるルこころ

そころらむありの男よなうそこのあつあけた。

あつあつこころれなまじとかりらのゆらえ

にるがらねばしめあづくかゆく

○ 知る

ニアルシ  
ニア反ナ

子がかりと人捨ヒツリの匠イシ

伊勢物語  
橘午

甲若たゑみ

りのぬの人形ヒトカタ

原氏物語

と地くりけるこ

子よりの洞

○ 狝子玉麻呂

子ニハキウ  
若ライイ

とらあより

「アヅ」ニキ

徳南日本紀  
元服

今五半

にとどむ死りまむのい

○ 狝子清とらあより書「アヅ」ニキ

日本紀

とらあより

○ マナゴ 高みちる音信よき

相應 書みむ久けり

よりのび

よりのび

○ マナゴ 高みちる音信よき

相應 書みむ久けり

とらあより世継の子と定めらると死ヨツギ

○ ソビラ 背よの翁ハミとらあより

ヒタヒ 類よハ翁ハミとらあより

とらあより中時のせらると死

とらあより「アヅ」ニキ 日本紀 今五半

孫よりの句

○ 孫よりの栴麻屋よ切ららかく老ぬ。作家の名  
 と切らひて「オヤ」の君がきとなど中きさるる所  
 ○ 孫よりの嫁が子うみつとてうちよるこぢ  
 とはあゝ。今も死もあよひつゝあつゝあつゝあつゝ  
 るよひつゝあみる

神婦よりの句

○ 神婦ワキモ万葉万葉 ぐうあつる栴のこぎしちあゝく花咲ぬ  
 色バ

○ 姉としてツリ庭造りツリのりよ万葉 妹トキモ云 池よとるらた家  
ヲシトリ 琴のうみたれば

○ 姉わくわくおごさへ万葉 行とてあろきさるら日本紀  
「井ナカ」 志らるよ。時を乃ほくも死ぬれば「葦路」

○ 姉が傍よりの奇の冊子よヒトリ 大西の史とら

こがーくもぶるよ。あーくごがねく万葉し下ユガレトウリ そグ  
オよハ。えんさうぬらごりりぞ死ぬれば。終りがつる  
わづらよめる

○ 姉が神あうぞくかまにカタののみらうたに  
ふははけくりそあうり。よみくされがうた  
奇るうらよ。たのごころうらよのぬそらどつらく

○ 姉が熱ヤイクサ艾シサナリりそ肩カタのあうりとヤ襟くよ。た人

がこまゆりちあられ古事記しそまが船悪女ナリをわれど  
らいついもあられよめる

あつらふよめる

○ 万葉あつらふものカクシり妻ナリかたにゆきてあはくかまよら  
どりのとくくほくをまをされ万葉かりほく。  
あつらわれあつらふの影あつらふ。さびけさ川カハツラあ  
まーこころをれが。あみくたうりほろりる

○あふひとなんかえし女のかと入母のこらをれ  
ばらまうたうぶくをこよもまこつうあぶたのど。ヤ  
はうらひとま

○あふひとまをぶるまあつうあつうあつうあつう  
りと入

○あふひとまをぶるまあつうあつうあつうあつう  
スニ 伊セ物語 一厨二居ルニ まぶる女のかとあり。垣カキツ  
垣ナリのさうしをかまけく五乗 函ナリ候もあてまぶる

ハたのつくよあられもまぶるあぶ。まこえらるあ乃  
あふひよ

○人あふひはあつうあつうあつうあつうあつう  
よ。まやうあつうあつうあつうあつうあつうあつう

○女乃りと入ヒモカ、ミ紋鏡五乗 今アルとあつうあつうあつうあつう  
和葛作の枝よつひくまぶるあ

ナリ勿解なまじやはうらうられあふひとまのよあつうあつう

ける

○かたしつよをたまふ住ナリ女のみへ。弱ふオモタカ面きよ

はなつこまハナツコマ。五葉ハコバニ。君フサミノ奇ニシイ世のイこらたイ

万葉。言痛ノ字。トイノ反ナリ。のろきハコバにぞ。つらハコバと

○ちかるとあううあねのあうた。あうまハコバと

だよハコバのぞハコバとハコバ。伊勢ハコバおハコバ。あうまハコバと

○あハコバのびハコバくらハコバたりハコバたハコバ。番ハコバのハコバ山ハコバたハコバのハコバよハコバくハコバ

馴ハコバくハコバまハコバりハコバるハコバがハコバ。えハコバあハコバつハコバまハコバばハコバうハコバけハコバげハコバまハコバとハコバむハコバかハコバくハコバ

けるハコバはハコバ。あハコバうハコバいハコバさハコバらハコバあハコバもハコバりハコバぬハコバよハコバあハコバとハコバうハコバとハコバみハコバくハコバ

○女ハコバのハコバまハコバごハコバ世ハコバのハコバひハコバ。伊勢ハコバおハコバ。とハコバんハコバゆハコバらハコバにハコバあハコバのハコバひハコバしてハコバ。伊ハコバせハコバおハコバ。

ナジムハコバ。あハコバむハコバくハコバはハコバらハコバのハコバひハコバらハコバがハコバ。あハコバのハコバひハコバあハコバりハコバかハコバハハコバ究ハコバ

のハコバ乃ハコバよハコバくハコバ馴ハコバくハコバまハコバるハコバはハコバ。伊ハコバせハコバおハコバ。よハコバいハコバぬハコバとハコバりハコバ。

さハコバらハコバはハコバとハコバうハコバとハコバ。伊ハコバせハコバおハコバ。あハコバのハコバひハコバあハコバりハコバかハコバハハコバ究ハコバ

るハコバよハコバ。あハコバのハコバひハコバあハコバりハコバかハコバハハコバ究ハコバ

なみん 五乗一 オスハ知 あまひてほられバ。いさあそよめる

源氏物語

巻第六ノサマナリ

○あまののりあざらふにかくろとそく。家りとあ  
くさせそ女の子とあり。田伊セと地と緒なり。  
あまあどもいとまよびよまむらあそよまよ  
とらひゆらぬればこそよ

○姉がりほくろくろのあろまよへのゆとほ

くれと ほい抄流 やはらうらひつゞく。地ほぐさ 和名鉢 あま

何カトナリ

兼ナリ

ふぬ 和名鉢 足下 和名鉢 なまひまあよかくけり

合羽ナリ

アレタナリ

とそく

○姉がりよひとせれば。より木の橋エらう枝エきしそく。

五乗集

若校ナリ

早のうらぐくに 五乗 さそあけしそく

ウラカシ

地りちかりつまじバ

○秋の夜。風泣しく吹フクよ。かのひてほろ姉がり

く月のゆるゆるはゆるどに。ゆるゆるもあつても印の  
おのちきりんにきこえられバ

○ せやどろしととどろよ。万乗 雨ノ 女ハうちをむとみ

屋敷お港 則備見 ながら。スーくみえぬりぬアウ

ニテソムク 義ナリ かくおひえげりてゆるなり。くわだ

よあつびハなどりのおらあつた

○ こりりくゆるる女のうーろめさう  
伊勢お港 後ス  
痛ニテんモトナキ

おりのりりーかばあめーてやとむと。異男コトヲカ

外ノ乃おはばらととと門よあむげみくともどり

ゆるゆる。女のきり乃とくえおきツゲ告たりん。とく

うーみくよみおーほとよあさく

○ 母おき隠れさりる女乃。ぶづうハかくても侍

ん。母の刀自乃いささくあさあななどいあえ

ゆるよ。ゆるよあはもとおあえられバせうりよかく





の山道とゆくに。思オモヒ火ヒ

和名鉞燐火於庭比人及牛馬共死者血所化也

うらあ

らんサアラフふ万葉き

まてひるかのけり。とをひり

岳代初後  
成時ナリ

うち地どもうれぬきと。心と定まカハく日本紀ニラメ目カハ務カハ

カハト云意初

てそれバウケテ朽ウケテる木のひるにてありける。まを秋

ふのとがくくくくことをやのみま。なごらへきり

ルり

○山登道風のきつとてよく拙書男とあねま

てスミナリ硯和名鉞

須美須利

葉ワラフ筆フミテ

和名鉞  
和良不美天

とほくかたり志くハ

カカラコト

筆フミテハかて書フミテ巻マキ

和名布美比都  
書物及ナリ

あり万葉かあさと

うで。赤人の屋坐とあつるもあつたなんかの法

けいほども。あくくよみなる

○子ハワサ能オキ優ヒ倭ヒ

日本紀今テノ  
狂言ニアテカク

みまゆべい。まごじ

和名鉞  
佐受伎

古事記山神ヲ祭ル仮庇コ  
コニハ物ヌノサニキニアタル

一間ハハありまふあつらん

ハカニテ  
トラヒ

食タベ地モ

拾遺集ハカレイ摺イコ子

和名鉞加礼比許  
ハ今ノ破子ナリ

あくくそこより地

久とやうらひと死なをあれよあり

○ 秋友よく火ヒヤ 日本紀今鉄鉋ニアテ、カク と付イるが。おりあえ

び火の葉エニセウ みあよりヤキ 焼たぐれうるとあえく。

仲アフラスリ葉膏葉 と付りてつうらひとく

○ 池のべの林ナリ子ナリとくもぐり林檎リウコウ 和名鉄和名鉄 みイッ千利字古字

ありあわらひカウジあまのちが和名如棋無之子ハいと多く

かりうらひもむらんぞとひわどよあり

○ うらひ伊勢物倍 あり。水ミツ取トル玉タマ 和名和名 ひヒとトらラ日ヒ取トル

お和名 玉火精 三アハヒタマ。被方葉玉真珠 三ミ。それノ取トルうウとトよヨとトやヤ

うノたタうウのノそソのノ代代 ノコトニナル 万万葉葉 代代ハハダダケケノノ及及テテニニアアソソレレダダケケトト云云々々ナナレレハハ償償

とバといいううままににせせんんととくく。かかくくハハをを取取ららななどど中中ににはは

ううららひひととそそ

月月次次よよららいいのの句句

○ 春春ののままけけららははつつととああええくく 伊勢物倍初時見テ之 礼礼中中ととそそ。友友

早朝ライフ

かりあるよ。かどみから伊勢のし伊勢よとりたるヤタチノ山今積今云

ヤブカウ  
ジナリ  
の物よりもこそぬる伊伊伊勢物伊外外物物ヨリモ  
ほへておされ

ルれば。是とらりそよめる

○きさし。死物の年乃日。物考の山にあうづるとそ

「友が死ひとらりそよ〜〜くわく伊勢に伊勢に

○曲水の老食トヨノアカリ日本紀日本紀顯宗顯宗天皇天皇  
ニ始ル其紀二見エタリ  
と歌よそなとら

あよび。又あり死ありき。ひら〜〜ける伊物伊の死乃夜

のいと大きやうあるとわ〜〜死伊物伊に〜。あるが

とありおされ伊死伊バ。それともし〜〜にあらそそ

よめる

○春らつけれる古今集。閏月ヲカクイイヘリ。物そさ〜〜乃

死みんと。源人ヒキト日本紀日本紀今今ノ三味線三味線ヲヒト舞人舞人日本紀日本紀今今ノウタヒト歌人歌人

日本紀日本紀今今ノウタヒト舞人舞人日本紀日本紀今今ノウタヒト歌人歌人  
哥ウタヒト多多ララモモノノ佛佛入入日本紀日本紀今今ノウタヒト舞人舞人日本紀日本紀今今ノウタヒト歌人歌人  
太鼓持ナリ

らると死伊物伊を〜〜に〜〜にせんといふよ。おご

かりにづる月 万葉オソク のひらうさかしく 万葉 の  
ちよみえなれば

○ なぐれ 友ハ祖ノ あり。「夜ふくはくあももあるや」 古今  
ニ六帖 とのきこく。さうつは昔の人のまあるる時  
あつるとく。梅花と緋よがしたるともたくり  
後りぬれば

○ 神代加能 ちマキ チマキ ちよみえなれば ミゼ ちよみえなれば

たる人のりこく

○ 実 ミ 五月 ナツキ つらこら氷をのひからひ乃ほしたる  
と。碓 サメ 井 イ の人の 氷舞ハ碓カ井 物 名物ナリ くりたるゆあがら  
さうびなれば

○ 七月 フミツキ 七日 ナヌカ 蹴鞠 クエニリ 日本紀 このむ人の カキ けり クエノミケ 海  
人のりこくあるよ。ゆりむやとらひゆせし カキ かた。  
今ハいさけるるふよかづしひて 後ニ用事ニ せり。 カマリテトク

まがづきあつたあの人をどちううらみとてく

○さうのたうらうがこゝろくみんや。たつたごまごの死  
川のきこまうくみるこそまごれとらひのせう  
たる人ののりく

○も月九日<sup>カラウカタ</sup>のむ人乃がやうたること  
よのがうくぬのひ日く。きもさうぬよあも<sup>フル</sup>  
とせむのりせうのうらみよ

○菊の死乃うらう人のさかづ。伊勢<sup>イセ</sup>地<sup>チ</sup>條<sup>ジョウ</sup>孫<sup>ムネ</sup>善<sup>ヨシ</sup>一<sup>イチ</sup> <sup>ホトヨキサカリナリ</sup> 又よあま

とやうぬる人のかこ入あわうく。ほのこしてあそ  
ひせりなるま。ならあらしにまぐれづらぬ乃後<sup>ゴ</sup>ごま  
又<sup>マ</sup>後<sup>ゴ</sup>あぬれば。庭<sup>ニワ</sup>ゆ <sup>後ナリ</sup> ちどもなき物<sup>モノ</sup> <sup>テ井</sup> <sup>中</sup> <sup>ニ</sup> <sup>あ</sup> <sup>ま</sup>  
にうらう入るまどいころまをまみ <sup>身ナリ</sup> ちふつ。いはい  
まよあまよよあまい

○あまのつね十あつたあ。あまのいさあまのいさあ

人のかたまり「ヤウキ」のちいらひ「赤ノコハイヒラ」 ちりちり  
ころよ「ニカ書リ」 やちほろひとく

○さーのころひそだよからあざれてひさーんとい  
ざうーむぶだのもといひとむはなれむよよな  
らぶ「伊勢物語」よかくれん「あまのえらるよとくい」  
めくよめる

あつぎのよらつ

○むつぎ人のかたまりといふ「カラヒト」人のりせり  
ぬる「徳女」津乃津よりけつとく。き家作とふた  
から「雪中ニ生ル」のちもけりだやう「日本紀」とあ「管ナリ」  
わあ「いそく」めづらうれば是彼古とて決らうとく  
よみろ

○きいふだちありあざ「ラカム」とほり人のかたまり  
よ「ツメ」のいしまに「セリ」捕ら「万葉」厚の身とつら

たるよ「カテ」五葉 カテ あらじきまむよめるたがののら  
くしんくよめる

○ひねあうとあゆめさるむまめあ。あまがごめく  
酒のこもるに。あよとあえつるにあれどいそ  
肩トク ナリ ーくれがのあでつるゆ。さこそあをせとて  
あろ死シ 酒シロキ 黒酒クロキ トイフハ異物ナリ今ノ  
シロ酒ニアラス仍テ白キ酒トコトワル ときトク ちチ 入イ 入イ  
はハ赤のゆきなるはゆさー。又オホカヒ 蛤カキ 貝ガイ 古事記  
ハナリ

の突ツと考カウ 厚コウ ーイリ たるゆ。物モノ の蓋フタ 硯蓋 サマ ー  
かりたるはゆきかーたりーらバ

○卯ウ 月ツキ ころもろり 垣キ 付ツキ のころるたさかりるり。  
あくみむやといひゆきーさるがかりくありて  
とるよ。塩シホ 漬ヅケ のみあも 万葉 子コ 芥カイ 子シ 和名 鉾ホ とカテ 更マシ て  
あへるり。せよいあまごえらゆきさけられバ。あ  
あよハとらあよ。渡スル 河カ のゆあうカ せあつたん



てもづかきとあるよある

○みもあかきうらうらとあるよ。だが父さひーかづまこ  
し時ハ抑られねどこのあつらひの遠くよ。と  
くちあひよ別々といふらとさう。なまのー<sup>カツラ</sup>カツラ  
の身と<sup>スエサラ</sup>陶器よはらり入くおされら。つごこゆ  
坊さあひーとさへハ。伊勢なる女人の坊さあひ  
が。抑あくの<sup>ウツヤ</sup>彈<sup>カキ</sup>カキと<sup>カキ</sup>抑く<sup>カキ</sup>あつらつるやどよ。いと

抑あつらつるやどよといふ後ゆよ

○いとあつらひの<sup>セキ</sup>塩入る家の。風のく吹とあひま  
にまぬれれとさう。あつらとあそびとさう。あひま。  
らさくある。がりのあえのあ中に<sup>サギ</sup>古事記の園よ  
<sup>ウツヤ</sup>年序<sup>和名</sup>とさうとさう。あされら。それゆ  
あつらつるやどよといふ

○<sup>カキ</sup>初秋<sup>ホ</sup>風吹あつらつる<sup>カキ</sup>早<sup>カキ</sup>り<sup>カキ</sup>ひ<sup>カキ</sup>後<sup>カキ</sup>に<sup>カキ</sup>あつら<sup>カキ</sup>あり

ちう死あぐこ人乃まあねくよ。あどちうしといきけ  
る。真<sup>+</sup>ハな死ところあれば。たゞゆふよもある草の  
実ぞり死さうくほろろくありどあさあふ。あこ  
みづろろ<sup>ウリフ</sup>瓜<sup>瓜畑</sup>ほい死く黄たむみ<sup>ホソク</sup>る<sup>ホソク</sup>瓜<sup>瓜畑</sup>  
古事記と十むろろころあころそ。瓜<sup>ウリサラ</sup>盤<sup>日本紀</sup>みかりこ  
あへ終ふよ皆あめり

○紫丹むろり丹ハまご細死ころあひ。あたご<sup>万葉</sup>夜<sup>夜通ナリ</sup>

にあそむんとく。或山里よほむあどちう乃かこ  
よい死くあよむ。あ<sup>ホシトリ</sup>が<sup>ホシトリ</sup>ありまづろろ<sup>ツク</sup>造<sup>ツク</sup>り  
し<sup>ホシトリ</sup>り<sup>ホシトリ</sup>と<sup>ホシトリ</sup>濁<sup>ホシトリ</sup>なる<sup>ホシトリ</sup>所<sup>ホシトリ</sup>。五葉<sup>ホシトリ</sup>に<sup>ホシトリ</sup>ほ<sup>ホシトリ</sup>く。紐<sup>ホシトリ</sup>脯<sup>ホシトリ</sup>  
シタルナリ世継抄と<sup>ホシトリ</sup>平<sup>ホシトリ</sup>盤<sup>ホシトリ</sup>。延<sup>ホシトリ</sup>喜<sup>ホシトリ</sup>式<sup>ホシトリ</sup>よ<sup>ホシトリ</sup>盤<sup>ホシトリ</sup>りて<sup>ホシトリ</sup>あ<sup>ホシトリ</sup>され<sup>ホシトリ</sup>  
ニモ見タリり<sup>ホシトリ</sup>バ

○長月乃丹アる<sup>ヤナ</sup>次<sup>ヤナ</sup>。川のきこよほろくまづろろとも  
どちのあこ人の死くあそむ<sup>ヤナ</sup>り<sup>ヤナ</sup>る<sup>ヤナ</sup>よ<sup>ヤナ</sup>。海<sup>ヤナ</sup>あ<sup>ヤナ</sup>よ<sup>ヤナ</sup>  
万葉

海よりとく<sup>〔日本紀〕</sup>の巻乃<sup>〔日本紀〕</sup>一<sup>〔日本紀〕</sup>天ありある海。  
 〔カタマ〕<sup>〔日本紀〕</sup>なぐらりりてあきくあ入たのひ。海をね  
 ども終りの物らうひ<sup>〔万葉〕</sup>記。あちちをねりま  
 どりく入あひよあある。

〇わみぢらあね<sup>トブ</sup>ねら。ある山をよまあわうくひひ  
 あとあよこ<sup>〔ミツダケ〕</sup>ハ松茸<sup>〔後撰〕</sup>のとりよよああるたたり  
 ありく。ひりひるふいりねる海あがりもつうふ

ありえんよ今ハ初もそぐぬとはあり。さうませ  
 んらどあえ終ひく。まの海と沖よ考うくが  
 たあふ。又大根<sup>オホネ</sup>あどさう<sup>〔古事記〕</sup>まじりまじり  
 くとあ<sup>〔古事記〕</sup>のあま。うああうまるとさく

〇氷<sup>ヒヨ</sup>あなん<sup>〔古葉〕</sup>さうぶ<sup>〔古葉〕</sup>さまべ<sup>〔古葉〕</sup>とて。あけく人のある  
 よしあつれば。あ<sup>〔古葉〕</sup>く<sup>〔古葉〕</sup>。〔古葉〕かまて<sup>〔古葉〕</sup>あ<sup>〔古葉〕</sup>り<sup>〔古葉〕</sup>ん<sup>〔古葉〕</sup>  
 古<sup>古</sup>依<sup>依</sup> 来<sup>来</sup>り<sup>り</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>よ。氷<sup>ヒヨ</sup>あ<sup>あ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>あ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>とて今<sup>今</sup>網<sup>ア</sup>代<sup>シロ</sup>人<sup>ヒト</sup>

万乗細代守の力とあり「古休纏日記」つとスリなん和名須利麓竹筵ナリ

よみくおら日本死ちぎり紛束ハ遠ひつれど

これめさくあそびたまへとくさららよめ

ておくれルレバ

○志しひむらりありドはとりひおらたらら

ながりゆたに。臭ナハシロラ和名鉄ワカ十タチ葉ハ葉エ之地をま

万乗ヨメナ類るどいふまぎらかのといとうらうはく

らせくあのあふおのおのお日本紀といれバ柳ぶ

葉ガキと稱カメよされたらんのま「万乗みみ」とも

地がえぬららさらまあづよある

物状はらひ細

○着葉をあやし地かまのに入くはらひとく

○うらひのまの籠ヒナ乃なまよくなくと葉よ入くは

らひとく

○ 継種ツキホし〜るびとつらよ。和名ゆきしの梅乃ツキホ

枝エ五葉五葉とをら〜お〜はらひと〜

○ あら〜く〜はらるるモ藤フジ節フナ納五葉とあら〜これ

と芭コシにほ〜せ〜はらひと〜

○ 鞆コシの玉クニオサ織クニオサ乃あら〜え越後キミにライヘリあら良テツクリの和名相和名

晒ヒキとほ〜ゆら〜

○ 琉球リュウキウ昔今集昔今集ほ〜白オシの花ハナ子コ蹴キック豆マメ和名和名敏チの和名花ハナ

お〜え〜はらひと〜

○ 竹タケの組クミの和名一ヒト枚ヒラゆら〜

○ 貳貝フイガヒの和名節フシ延喜式延喜式とフナ構フナあら〜と〜

○ 竹ナルタキ出デの和名礎イソト延喜式延喜式二ニ丸マルゆら〜

○ ちうチウ死シ秋アキの花ハナよ〜と〜和名以イ閉ヘ都ト以イ毛モ是是八ハ里リ芋ユヲヲイイフ

万葉六是ヲイモトミヨリゆら〜

○ 新シホ真マに和名ゆら〜

○ 甲斐のゆ乃「ゆ乃」延奇式と「ゆ乃」今くつらひとて

○ 利根「カキ」日本紀と「利根」今くつらひとてオウシ

○ 東郷の「サアヤ」俗云上州ガヤ「正」日本紀たらくとて

○ 休胤「カキ」延奇式と「休胤」今くつらひとて

○ 頼多の「カキ」延奇式と「頼多」今くつらひとて

○ 内子「カキ」延奇式と「内子」今くつらひとて

○ 暎「カキ」延奇式と「暎」今くつらひとて

○ 家人「カキ」延奇式と「家人」今くつらひとて

○ せよとく「カキ」延奇式と「せよとく」今くつらひとて

○ ちみち「カキ」延奇式と「ちみち」今くつらひとて

○ 羊の毛「カキ」延奇式と「羊の毛」今くつらひとて

○ ちるちる「カキ」延奇式と「ちるちる」今くつらひとて

○白躑躅ハシラツジの花よ鉈アユ子五葉 しろくまがりらるるやよ

○龍麴ハニコクサの鉄テツのシ 続日本後紀 しろびらるるやよ

○連翹イタチクサの花よ烟アヒのシ 和名アヒトリ 万葉 しのぎシト雀ト 拾遺集ニ雉子モシト、ニモタリトヨミアハセタリ

とほくたまりらるるやよ

○細シビなシのシ 万葉 袖フナ 大キナル 二つスエサラ汗ア陶タウ器キ 延弁式 よりりて

たまりらるるやよ

○りりくユキヒト多のシよシなシ 延弁式 鞆タヌ 一口 延弁式 結ムスりらるるを

○後ノチ深コ延ノチ弁ヒ式シ今イマノノホホリリ ニアテ、カキタリ のシ 延弁式 二ニろロちチてテあアらラうウ

けりよ

○脛ヒダ中ナカ延ノチ弁ヒ式シ皮ヒヲヲモモテテ袴ハカマ フタクダリ 二ニ原ハラ 延弁式 脛ヒダ 今云キヤ 二ニ原ハラ 延弁式 茶チヤ

に八ヤ形カタ尾ビ 万葉 鷹トウノノ尾ビナナリリ八ヤノノ字ジ カタマルヲシカイヘリ のシ 延弁式 征セウ 箭セン 四シ 箭セン 日本紀

たまりらるるやよ

○名ナ々々 延弁式 一ヒト面ツラ 延弁式 とトゆユぐグりリのシあアのシやヤよ

○金カナ十ジュウ枚バイ 延弁式 白シロ紙カミ 延弁式 五イ枚バイ 延弁式 磨カ織オリ乃ニ錦ニシキ 延弁式 二ニ疋フタムシ 美ウツ 后サケ 万葉

十<sup>ト</sup>伸<sup>ス</sup> 延<sup>ニ</sup>式<sup>シ</sup> 干<sup>ホ</sup>細<sup>シ</sup> 一<sup>ホ</sup>筋<sup>シ</sup> たるよりや<sup>シ</sup>のえ<sup>シ</sup>なる

とく

○ 糞<sup>ワカ</sup>室<sup>ムロ</sup> 日本紀 洗<sup>シ</sup>りて<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>火<sup>ユ</sup>湯<sup>ブ</sup>槽<sup>子</sup> 延<sup>キ</sup>式<sup>シ</sup> 凡<sup>シ</sup>呂<sup>シ</sup>桶<sup>ナリ</sup>

○ 洗<sup>ミ</sup>頭<sup>ブ</sup>槽<sup>子</sup> 延<sup>キ</sup>式<sup>シ</sup> 頭<sup>シ</sup>モ<sup>シ</sup> 洗<sup>フ</sup>足<sup>ス</sup>槽<sup>子</sup> 延<sup>キ</sup>式<sup>シ</sup> 凡<sup>シ</sup>呂<sup>シ</sup>桶<sup>ナリ</sup>

あ<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>よ<sup>シ</sup>洗<sup>シ</sup>くら<sup>シ</sup>せて<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>や

○ 塩<sup>シ</sup>漬<sup>ホ</sup>の<sup>ツ</sup>細<sup>シ</sup>螺<sup>シ</sup>に<sup>シ</sup>茶<sup>シ</sup>のみ<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup> 茶<sup>シ</sup>葉<sup>シ</sup> 一<sup>シ</sup>壺<sup>シ</sup>保<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>た<sup>シ</sup>ま

り<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>ハ

○ 延<sup>ア</sup>式<sup>シ</sup> 洗<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>考<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>延<sup>シ</sup>式<sup>シ</sup> 洗<sup>シ</sup>頭<sup>シ</sup>槽<sup>シ</sup> 延<sup>キ</sup>式<sup>シ</sup> と<sup>シ</sup>洗<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>

○ 延<sup>ア</sup>式<sup>シ</sup> 洗<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>考<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>延<sup>シ</sup>式<sup>シ</sup> 洗<sup>シ</sup>頭<sup>シ</sup>槽<sup>シ</sup> 延<sup>キ</sup>式<sup>シ</sup> と<sup>シ</sup>洗<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>

○ 延<sup>ア</sup>式<sup>シ</sup> 洗<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>考<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>延<sup>シ</sup>式<sup>シ</sup> 洗<sup>シ</sup>頭<sup>シ</sup>槽<sup>シ</sup> 延<sup>キ</sup>式<sup>シ</sup> と<sup>シ</sup>洗<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>

と<sup>シ</sup>び<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>レ<sup>シ</sup>ハ

○ 足<sup>ア</sup>踏<sup>ユ</sup> 古<sup>シ</sup>事<sup>シ</sup>記 洗<sup>シ</sup>脚<sup>シ</sup> 脚<sup>シ</sup>羊<sup>シ</sup> 洗<sup>シ</sup>脚<sup>シ</sup> 脚<sup>シ</sup>羊<sup>シ</sup>

○ 洗<sup>シ</sup>脚<sup>シ</sup> 脚<sup>シ</sup>羊<sup>シ</sup> 洗<sup>シ</sup>脚<sup>シ</sup> 脚<sup>シ</sup>羊<sup>シ</sup>

と<sup>シ</sup>び<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>レ<sup>シ</sup>ハ



○ 日中カカエの入ホリは蓮ハスのイ

和名 波知須乃波比蓮根ナリ古事記二日下江ノ入江蓮

○ 蓮タツノハクサのイは蓮ハスのイ

○ 押オシ船フネのイは蓮ハスのイ

○ 芦アシをヤ全カマ今イマ云イハ全イハ一ヒト具ツケのイは蓮ハスのイ

にイは蓮ハスのイ

○ 唐カラのイは蓮ハスのイ

○ 船フナのイは蓮ハスのイ

○ 蓮ハスのイは蓮ハスのイ

○ ひヒのイは蓮ハスのイ

くクのイは蓮ハスのイ

特トク乃ノ洞ドウ

○ 父ウチ君キミがイれレ蓮ハスのイは蓮ハスのイ

んンのイは蓮ハスのイ

よヨのイは蓮ハスのイ

○ 母君ゆくりゆく日本紀うせのしぬるより。世の中は

さしぬるれのみくもがね古今集とよあり新也。今

又みゆがくあはんとしつみなるるか

○ 遠見乃君うせ給ひぬるより。世はヤマあはともうけた

まづさうしに。とらぬうづるは別ワカレよそと。そ

うねみるげはのまるとよありえせエセなる歌

○ 姉スギもたよひぬるより。よづらぬるあよりあり

けることあよみどろよりゆかひるを。このはぬらん

ごころハせんもん万葉ミトリ子ヨリ是迄あがさんよ哥ノ詞ヲトル

みうねあつらをのえなるるか

○ あもむとなんゆがせ万葉とワコと日とシタに万葉

かき古事ウケトとらぬる給ひぬるより。はらうよは

らん古事記ウレかろくもニテモノニ志たぐさあなるるか

かくなん

○ちいびふ 万葉登保オト 才のまもるぬくさるぬひ

ぬるより。口ひも床ささどいづづき 万葉 よかり

終ひしが。終よハみくらそりのきりもなごいづり

しよ。さそいみもるさか

○妹心ゆくりぬくうせあひはるも。いこもあひよ。

後撰集「ヒツキ 古事記ニホトアリ 和名鉄比止伎 荘子 どうらくくさうさふ人 分り

サマナリ のたぐひよせいん サマナリ ぎ。よろづあひいさくれ

くなのぬしやまごかくなん

伝よなる宛

○さるよあさりぬれ ハフムリ なる守にまあうで。水

飯 イヒ 入なる。飯よきせなる サカ 新遊ほつけとね 日本紀

ちよりさあめる

○父の ハカトコロ 遺 日本紀 抄 ハキキヨ 抄 万葉 せどく。奇守

せの ハカ 世 ハカ 多 ハカ ち ハカ け ハカ よ ハカ あ ハカ う ハカ ぞ ハカ 若 ハカ き ハカ い ハカ え ハカ の



○ 渡會の宇治の舟鈴の川カハカニよ徳坐シラミリス空スメオホ大ンカニ四カニ神

祝詞是ハ内宮ヲカス 大御ハ至テ貴キヲ云よまろてくちおあよなるあ

○ 渡會の山田が系に徳坐トヨをケノス受メカニ空カニ神祝詞是ハ 下宮ヲ

多ハのヒロミハ廣ハ希ハよなるあ

○ 山神ヤニツミとイハ総イハいなるに。櫛イハ組イハなるどくあくよま  
てくてもろる

○ 浮舟の山ノるホ能ホ保ノ中ノよまろてく倭ヤニト建タケ令ノ命ミコトの

陵ミヤ神カミなるなるてあある

○ 櫛クシ根ネ同ト門カド命ミコトをイハ後ト同ト門カド命ミコトの祝詞 両神とモニ二ニ神カミとモ系ケ

なるなると伏フシあみくなる

○ 八ヤフ船フネをウチ受ヒメ罪ナリの五穀ヲ守ル神社ヤシロよ今云 稻荷ナリ信シくイのリ

なるりく

○ 道ミチ祖サネ神カミよダぬフさケなるりくよある 是ハ八旅ノ安全

○ 阿ア須ス波ハの守ル神神カミとイハりシいハなるりくまカ

木 一説ニ云サカキハ深木ニテ常磐木ヲ云一説ニ云是ヲ神前ニ植ルハ淨  
 不淨ノ穢ナリ依テ境木ト云意ナリ一説ニ云神代紀真坂木トアルガ此  
 詞ノ始ナリ仍テオモフニ今云正木カサカノ及サナリ然ルヲマノ詞ヲ省テ  
 サカキトノニ云カ

さざぐるまのりとは

○ 氏の子は白眼鶴毛のり サメツキゲ 今云ササヱヒトヒキ 延喜式 ツサツ 古事記

○ 磐の約のり ツナケ 衞馬 ナリ と か は く 一 社 は 納 を り

と化よみくはなる

○ 龍田の法神 凡ノ神 万葉 ニツ 風 祭 り し と よ あ る

○ 貴船の四神 關露ニテ水ヲ ツカケトル神 よ 天 の 水 雨 ナリ と ら ひ

と化よみくはなる

○ 神食 今云 伊膳 を り と く

○ 袴の幣帛 クサクノヌサハ五色ノキヌ 今ハ袂ニカタトリテスルナリ を り と く

○ 初穂と千頼八百 ハツホ チカヒ ヤ ホ カ ヒ 稲 ノ 初 穂 ナ リ 今 是 ヲ カ タ ト リ テ 錢 ヲ 奉 ル ヲ 初 穂 ト 云 頼 ハ 掛 穂 ナ リ 八 百 千 ノ 白

ハ多キ ヲ 云 よ な り と く

○ 井菜 ア マ ナ カラ ナ 井 菜 人 參 ノ 根 を り と て

井菜 ア マ ナ カラ ナ 井 菜 人 參 ノ 根 を り と て

○ 禊ハキの廣シロモノ物ハキ禊ハキの杖ハキモノ  
日本紀是ハ大奥小奥ラ云とちまるとし

○ 毛ケのアラモノ禊ケのニキモノ杖モノ  
日本紀アラモノハ大奥和物ハ小奥とちまるとして

○ 袂タビのタビ口カドのタビありりと守モリせぬとヤヤるルのタビ

と。是迄あアらラみミくクらラひヒのタビ  
視祠 一カ葉コヒノムハなる

○ 袂タビのタビ祥サカナリナリ物モノかカらラしシゆユ、タビのタビさサらラもモ

らラくク采ハキるルよヨぬヌさサなナらラうウて  
始イノリシ時ノスサト奉リカハルナリとちま

ちまるとして

波

それゆえそくおのひあつハ安く。ゆゆえそくゆと  
いひあつハやまうけつ。そハそのゆとゆとあふよくゆり  
ゆくとあつるゆれハあつ。そにゆのあんとゆりひ  
ゆにかんとゆのあふ。ゆゆよゆゆゆのそぐあひく  
ゆいあつてゆハ。そゆゆゆゆあつてゆゆゆあつ。ゆ  
あつてゆゆゆあつてゆゆゆあつてゆゆゆあつてゆゆ

ありうらがまのむじのたからごとくありと。後後足大人  
のまゝのむじ。さうとあつくちるおも。さうびなりは後  
波義とておあるむじせと死。けち書がりのまを  
さうとあまのせんむと物せ。八。たあやうらまん  
人のあまのせらあや。後よはあまのうらまの  
あうばうらむらのあまへ。さうあや。後あやあま  
こはまのさうとあまのさうとあまのさうとあまのさう

越乃高田橋琴々





安永二年己正月

書林

江戸通室町二丁目

須原屋市兵衛

大坂心齋橋南久宝寺町

荒木 依雲坊

京都淨土町仙光寺上

梅村 宗六郎

片歌堂波々州

後編古書好重

以波保色依

词州小苑

词州大苑

李用雲舟筏

孟喬和漢雜畫

後足著

後足著

荒虫著

湯鞍著

後足著

後足著

後足著

